

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 2 (REC)											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	倉本淳二・伊藤優子・篠原麻梨			実務経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
授業概要											
下記到達目標を達成するために【実習 1】で学んだ基礎知識をふまえ、各種機器・機材を熟知し、セッティングからレコーディングの実践、ミックスダウンに至るまでの各工程を順次学習する。											
到達目標											
アナログ卓とデジタル卓の違いを操作、仕組みともに理解していく。近年はProToolsを基本としたレコーディングシステムがスタジオの基本となっており、ProToolsとミキサー卓の繋がり方を理解しながら様々な音の流れを理解し、基本的な録音操作ができるようになることを目標とする。また、アーティストとのコミュニケーションを取りながらチームで作品を作っていく姿勢も学んで行く。											
授業方法											
各回のテーマに従って、レコーディングスタジオで実習を行う。オンデマンドにて講義動画も並行して配信する事で学生自ら復習や予習を主体的に行える環境を整え授業を進めていく。											
成績評価方法											
平常点	100% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。										
履修上の注意											
テーマごとに教員が指導を行うが、実習において各学生が自主的に作業し学んでいくことが重要となる。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	セッティング基礎 1：ドラム録音ができる様にマイクを始めとするスタジオ機器のセッティングについて学習し実践する										
第2回	セッティング基礎 2：ベース・ギター・キーボード、ボーカル録音のセッティング方法を学習し、実践する										
第3回	コンソールオペレート 1：SSL9000Jセンターセクションの主な機能と操作方法を学ぶ										
第4回	コンソールオペレート 2：SSL9000J I/Oモジュールの主な機能と操作方法を学ぶ										
第5回	セッティング 3：4 リズム録音のセッティングを実践、スムーズに行えるように練習										
第6回	セッティング 4：4 リズム録音のセッティングを実践、反復練習。経験値アップ										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習2 (REC)	
第7回	コンソール／DAWオペレート1：簡易的なレコーディングを行いながら9000J及びPROTOOLSのオペレートを始める
第8回	コンソール／DAWオペレート2：9000J及びPROTOOLSオペレート 反復練習
第9回	マイクロフォン・応用：マイク毎の音質の違いを体験し、何故何種類ものマイクが必要なのかを知る
第10回	ボーカルダビング1：ボーカルダビング作業を行う上で必要な知識を学習する
第11回	ボーカルダビング2：ボーカルダビング作業を実践。作業をスムーズに、確実に行う為に必要な事を経験・学習する
第12回	ボーカルダビング3：ボーカルダビング後に行う「エディット作業」について学習し実践する
第13回	バンドレコーディング1：バンドレコーディングを行いレコーディングの経験値をアップさせる
第14回	バンドレコーディング2：バンドレコーディングを行う、レコーディングの経験値をアップさせる
第15回	ミキシング：録音した音源を用いてバランスをとる「ミキシングとは何なのか」を学ぶ

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 2 (MA)											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	丸山 由美・蓑輪 直子			実務経験	有	職種	MAエンジニア				
授業概要											
放送業界を目指す学生の為の基礎実技能力を伸ばす目的で行う。放送業界の仕組みを理解し、作品制作の過程を実際に体験することで、世の中に出ている作品により深い興味を持ち、研究していくことが目的である。											
到達目標											
放送業界でのProTools（ソフトウェア）の使い方、作品の音響制作についての基礎知識を養い、企業に入ってから活動するために必要な能力を具体的にイメージすること、社会や組織で協働することの重要性を理解することなどができるようになることを目標にしている。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。映像作品に対して音響効果、選曲、整音、ミキサーなどの役割を決めグループで1作品を完成させる。役割ごとの作業は個人で行う。最終的に全ての作品を鑑賞し、作品の音響に対する意見交換などを行い、考え方の違いなどを理解する。											
成績評価方法											
試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する									
小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
成果発表	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、実習中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。グループ作業に於いて積極的ではない学生に対して、社会に出た際の協働の必要性を伝え、積極的な参加を促すことが必要となる。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション（概要説明、及び講師紹介）：実習に於ける心構えや服装など再確認。実習概要説明										
第2回	作品制作1 1分CM作品の音響制作（音楽、効果音付け1）：作品の内容に沿った音楽、効果音の選定ができること										
第3回	作品制作1 1分CM作品の音響制作（音楽、効果音付け2）：作品の内容に沿った音楽、効果音の選定ができること										
第4回	作品制作1 1分CM作品の音響制作（ナレーション収録）：ナレーション収録に於ける機材セッティングが出来ること										
第5回	作品制作1 1分CM作品の音響制作（ナレーション整音、Mix）：ナレーション素材の整音の定義を理解すること										
第6回	作品制作2 15分情報番組の音響制作（同録整音、音楽、効果音付け1）：撮影時に同時録音した素材の整音の仕方										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習 2 (MA)	
第7回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(同録整音、音楽、効果音付け2) : 撮影時に同時録音した素材の整音の仕方
第8回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(同録整音、音楽、効果音付け3) : 撮影時に同時録音した素材の整音の仕方
第9回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(同録整音、音楽、効果音付け4) : 撮影時に同時録音した素材の整音の仕方
第10回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(同録整音、音楽、効果音付け5) : 撮影時に同時録音した素材の整音の仕方
第11回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(ナレーション収録) : ナレーション収録に於ける機材セッティングが出来ること
第12回	作品制作2 15分情報番組の音響制作(ナレーション整音、Mix) : ナレーション素材の整音の定義を理解すること
第13回	作品制作3 ラジオCM制作(企画、台本制作、打合せ) : 企画立案方法。台本制作の基礎理解
第14回	作品制作3 ラジオCM制作(セリフ及びナレーション収録、整音) : セリフ、ナレーションの収録の機材セッティング
第15回	作品制作3 ラジオCM制作(音楽、効果音付け2、Mix) : ラジオCMに於けるMix方法の定義を理解すること

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
実習・演習 2 (RADIO)											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	180	単位	6
担当教員	宮下博才、坂下冬樹、江澤亜美			実務経験	有	職種	プロデューサー・放送ミキサー				
授業概要											
様々な形態の番組作りを通してラジオ番組の制作過程、スタッフの役割全般を学んで行く。近年はラジオは音声だけのメディアとは限らず、インターネットメディアとも連携した番組も増えている。また、映像も絡んだ番組を作って行くこともあり、番組制作者、企画者として将来幅広く活躍する可能成を学生一人一人が取得できることも目的である。番組作りの中で自動的にエンジニアリングについても理解し、番組目的を理解したエンジニアにもなれることも目的の一つである。											
到達目標											
番組の企画、制作、台本作り、配信、エンジニアリングなど全ての工程ができるようになること。機材に強くなることも大切であるが、どのような番組をつくるため、どのような技術やセンスが必要か常に考えながら行動にうつれる様になることも大切である。1年次では学内の基本的システムをマスターする。そして学科より外部の学生、先生スタッフへのインタビュー、または学外や地域と連携した番組作りにも挑戦してコミュニケーション力も養っていく。											
授業方法											
この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、自分たちで企画した番組を制作して行く。 放送基準・倫理に沿った番組制作し完成させる											
成績評価方法											
試験・課題 80％ 試験を総合的に評価する 平常点 20％ 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、実習中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。グループ作業に於いて積極的ではない学生に対して、社会に出た際の協働の必要性を伝え、積極的な参加を促すことが必要となる。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション：ラジオスタッフ専攻実習 概要説明。 過去の作品を視聴										
第2回	5分番組制作1：（演習と連動） 企画会議、企画書制作										
第3回	5分番組制作2：（演習と連動） 台本制作1 及び打ち合わせ、素材準備										
第4回	5分番組制作3：（演習と連動） 台本制作2 及び打ち合わせ、素材準備										
第5回	5分番組制作4：リハーサル										
第6回	5分番組制作5：本番 円滑な収録の流れを実践できるようにする										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
実習・演習 2 (RADIO)	
第7回	5分番組制作6：試聴会及び次回にむけての問題点(課題)
第8回	10分番組制作1：(演習と連動) 企画会議、企画書制作
第9回	10分番組制作2：(演習と連動) 台本制作1 及び打ち合わせ、素材準備
第10回	10分番組制作3：(演習と連動) 台本制作2 及び打ち合わせ、素材準備
第11回	10分番組制作4：(演習と連動) 台本制作3 及び打ち合わせ、素材準備
第12回	10分番組制作5：リハーサル
第13回	10分番組制作6：本番 円滑な収録の流れを実践できるようにする
第14回	10分番組制作7：試聴会及び次回にむけての問題点(課題)
第15回	整音・SS：整音作業・ジングル(サウンド・ステッカー)制作